授業科目名 <英訳>	西洋史学(講読) European History (Seminars)	担当者所属・職名・氏名	人文科学研究所 准教授　伊藤　順二

配当学年	2回生以上	単位数	2	開講年度・開講期	2015・前期	曜時限	火3	授業形態	講読	使用言語	日本語

題目	露書講読１

[授業の概要・目的]

19世紀前半を扱った史料集の講読を通じて、ロシア語の一般的読解力を向上させるとともに、公文書・公的書簡・私的書簡・回想録などのさまざまな文体に触れさせ、19世紀的な文体に習熟させる。

[到達目標]

19世紀のロシア語の文章を、辞書等を参照しつつ自力で読解できる。

[授業計画と内容]

以下の史料集をテクストとする予定である。 東アジアと関係の深い露米会社の行跡をたどることで、ロシア語の文章を身近に感じられるようにしたい。

Российско-американская компания и изучение Тихо океанского Севера : сборник документов (Исследования Русских на Тихом океане в XVIII-первой половине XIX в.), 1994, (『ロシア・アメリカ会社と太平洋北部の調査：資料集　(18世紀から19世紀前半のロシア人による太平洋探検)』)

ただし、受講者の希望によってテクストを変更する可能性もある。
受講人数にもよるが、毎回１頁程度、一人あたり数行～十数行ずつの割当てで進行する。

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点及び達成度]

期末テストはおこなわない。出席と予習の精度による。

[教科書]

プリントを配布する。

[参考書等]

（参考書）

[授業外学習（予習・復習）等]

予習として自分でテクストを訳しておくことが必須となる。

（その他（オフィスアワー等））

露和辞典は研究社出版のものを所持していることが望ましい。

※オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。